

# 碩 心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認 可  
神奈川 碩 心 会 発 行

61年1月現在会員数  
逗子地区 170名  
葉山地区 296名  
大船地区 56名  
(合計) (522名)

61年1月号(162号)  
発行者 根岸岳萃  
編 集 中 村 愛 岳

吟 嘯  
心 大 集

岳風会  
中村愛岳



# 新年のご挨拶

会長 根岸岳萃

明けましてお目出度うございます。頌心会の皆さんが、御家族共々輝しき新春を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。今年日本詩吟学院は創立五十周年を迎えますが、頌心会も来年創立五十周年記念大会を予定しまして、今年からその準備に入りますので、益々吟道にご精進され絶大なるご支援をお願い致します。

昨年は校内暴力、いじめ等大きく社会をにぎやかしましたが、吟道家には悪人無しと言われ、又吟道愛好家の子弟には、そのような人はいないそうです。

今年も頌心会の輪を益々大きくして、社会の浄化と地域文化の向上に活躍されますことを期待して止みません。

五十六花なら蕾  
七十八働きざかり

九十になって迎えが来たら  
百まで待てと追い帰す

右の歌酒落吟じられて、益々のご健康を祈念致しましてご挨拶とします。

# あけまして おめでとうございませす

(指導者一同より)

松井岳洋	根岸岳萃	加藤岳相
三井岳瓏	沼田汎岳	下條亮岳
井沢潮岳	小峰桜岳	加藤圭岳
中村幸岳	竹石憲岳	千葉劔岳
千葉香岳	中村愛岳	鈴木萃岳
森田暁岳	岩崎恵岳	鈴木孝岳
守谷崇岳	松野宝岳	杉山雪岳
秋元梁岳	佐藤湧岳	石渡桂風
矢嶋悦岳	黒崎李岳	広瀬翔岳
村田滯岳	沼田義風	清水耀風
伊藤峰風	白井寿風	白井麗風
上村象風	金指萌風	渡辺誠風
一柳道風	佐久間爽風	木村松風
田上洲風	寺脇歌風	立沢御風
小形雄風	行谷佳風	松井正風

## 「吟嘯正大之氣」(第一面)

藤田東湖先生の「和文天祥正気歌」の長詩は木村岳風先生がよく吟ぜられた詩の一つである。この「吟嘯正大之氣」の揮毫も恐らく藤田東湖先生の長詩を念頭に思い浮かべられつゝ書かれたものと思われる。

(色紙説明より)

# 61年度おもな事業予定

(総本部関係)

- |    |                             |
|----|-----------------------------|
| 1  | 19(日) 準師範講習…………… 労音会館       |
| 2  | 11(祭) 師範講習…………… 労音会館        |
| 3  | 21(祭) 第89回全国大会…………… 中野サンプラザ |
| 7  | 6(日) 全国選抜者大会…………… 九段会館      |
| 8  | 27(土) 夏期講座…………… 九段会館        |
| 9  | 14(日) 第90回全国大会…………… 北海道     |
|    | (神奈川県本部関係)                  |
| 1  | 26(日) 初吟会…………… 大和グランドホテル    |
| 2  | 9(日) 七段審査会…………… 平塚農業会館      |
| 2  | 16(日) 八段審査会…………… 平塚農業会館     |
| 2  | 23(日) 皆伝以上審査会…………… 平塚農業会館   |
| 4  | 6(日) 選抜予選会…………… 平塚農業会館      |
| 5  | 11(日) 総会…………… 湘南            |
| 6  | 8(日) 横二地区吟道大会…………… 鎌倉中央公民館  |
| 6  | 15(日) 青少年大会…………… 湘南         |
| 6  | 29(日) 湘南地区吟道大会…………… 湘南      |
| 9  | 13716(土火)                   |
|    | 全国大会吟行会…………… 北海道            |
| 10 | 5(日) 京浜地区吟道大会……………          |
| 10 | 12(日) 指導者講習会……………           |
| 10 | 19(日) 横一地区吟道大会……………         |
| 11 | 9(日) 42回県本部大会……………          |
| 11 | 29(土) 納吟会…………… 横須賀第二        |

## 総伝をいたゞいて 憶うことども

相談役 三井岳 隼

この度日本詩吟学院の最高位位の総伝をいたゞき感無量であります。これも偏見に松井岳洋先生の精神的な、又技術的な永年に亘るご指導とご尽力のおかげと感謝してゐます。又入門当初からの絶えることのない熱心な、逞しいご指導をいたゞいた根岸先生のお力添えの賜ものと感銘いたゞくものであります。

五十才にして吟を始めて二十八年……よくもこゝまで来たものと思ひます。これもよき指導者の下での健康のおかげ、又吟により練り上げられたその健康のおかげと痛感します。

振り返ってみますと色々な事がありました。初伝になったばかりの時、藤井竹外の芳野を号令をかける様な蛮声で、松井先生の前で汗を流しながら吟じたら、三井さんの吟は聞いている方が汗をかきまゝと言われた事もありました。又誠吟会の大会で、杜甫の登高を高く出すぎて（5〜6本）で何とか吟じ終つてほつとした事もありました。小林紫舟先生の下で詩舞を習つてゐるとき、有馬信代先生に吟の発声法を直され

指導を受け、余韻がなんとかのびるようになるまで二年位かかりました。この頃奥伝前後で高い声が急に出なくなりみず二本かかりました。やっと音階が元にもどつて来ましたが、女性のお弟子さんが多かつたので教場では6本〜7本位で吟ずることも多くなりなりました。五年位前から声の調子がすつかり悪くなり、沼間の鈴木医院で見てもいらつたら、声帯の上にある仮声帯に傷がついてゐると言われ、悪性化しないために、今も治療に通つてゐます。特別な発声法をするこゝがやられると言われ原因がわかり自重してゐます。

この度総伝をいたゞき、お弟子さん達会員の方々から何やかやと御芳志御厚情をいたゞき、泌々憶うことは、この方々の御支援御鞭撻があつたからこそこゝまで来られたのだと深く感じ入つたことでした。

松和支部の宇都宮徳風さんが昇伝を祝つて下さつた漢詩の中に「総伝昇格は社中の喜び願くは長く瓏声の従前の如くなるを」とありました。有難いことと思つてゐます。これを期にお礼奉公の意も含めて、更に五年・六年皆様と吟の道に精進したいと心に誓つてゐます。

第90回全国吟道大会参加

### 県本部吟行会のお誘ひ

日時・61年9月13日(土)〜16日(火)

第一日目 羽田II札幌II支笈湖II昭和南山II  
洞爺湖温泉泊

第二日目 札幌(全国大会参加) II定山溪温泉泊  
第三日目 小樽II大沼公園II函館山夜景見物

第四日目 立待岬II五稜郭公園IIトラピスチヌス  
修道院II羽田解散

費 三泊四日・九万三千円 (出吟料含む)  
二泊三日・八万一千円 (横立方式)

申込切・六十一年一月末日

◎二泊三日コース等詳細は加藤岳相先生迄

### 自然と人生 (一月)

(霜の朝)

手水鉢の水厚く、外に出づれば道側に引  
あげられたる海藻雪の如く霜を帯び、田越  
川一面に薄氷をつけたるが、潮の満ち来る  
に従ひ氷はばりばりと音して裂け、裂けた  
る片は潮につれて上流に流れ行く。(後略)

一月十六日

右は田越川のほとりの「蘆花記念公園」  
を訪ねた際「自然と人生」の中より(1  
〜12月)の一節が掲示されていたのを書  
きとめてきました。順次掲載の予定。

## 鎌倉散策に参加して

大船A 山 口 夕 岳

何回かの鎌倉散歩の都度用事が重なって参加出来ず残念に思っていました。今回やっと皆さんと行を共にする事ができました。

絶好の小春日和に恵まれパンフレットを手にとり返り出発。安国論寺では今を盛りの白山茶花の大木と、暖かい鎌倉ならではの紅葉が美しく迎えてくれました。

妙法寺はいつもながら苔寺の名にふさわしく、緑の苔におゝわれた石段は、折からの風に銀杏落葉が模様のように散り敷いて、名画を見る思いにしばし声を呑みました。

唐糸やぐらのある尾根で、遠く逗子の海を眺めて昼食、荷物の軽くなったところで出発、釈迦堂谷へと向う。話には聞いていたが、その景観を目のあたりにして驚きの声をあげました。

自然の作り出すこの不思議な景観に接し得た事の喜びを日々感謝しつつ、大船方面の私達は報国寺で皆さんと別れ帰路につきました。

野仏へ 積むより崩る石の冷え  
苔むして 小さき五輪やぶ椿

冬紅葉 谷戸深々と人語断つ

冬桜 女の瞳熱くなる

山茶花や 鰯口引けばほろと散る

堀内A 石渡 桂風

唐糸の 供花にやさしき冬日かな

木枯らしの 声八方に館跡

南海孤島探戦友

松和 菊地 笑山

いくさ終えしことをも知らずともがらは

八重の葎に潜みいるらん

孤島林中昼尚昏 残兵探索尽精魂

三十余年望郷念 叫呼切切響乾坤

孤島の林中昼尚昏し

残兵を探索して精魂を尽す

三十余年望郷の念い

叫呼切々として、乾坤に響く

以前、南方の島に元日本兵らしきものが潜んでいると、マスコミを賑わしたことがありました。その頃テレビのドキュメンタリー番組で捜索隊の模様を放映していたのを思い出し稚拙ながら漢詩を作ってみました。

(菊地)

## ぎんなん

「少年易老学難成」この場合のように、難の字を動詞の成とともに連続するときは、鼻濁音で柔かく成りガタシと読みます。も一つの例「払難去」払えども去リガタシ。この二つの例は、ともにレ点で難の字が動詞である成と、去の上にあります。

難の字のも一つの読み方は、教本には例が出て来ませんが「破心中賊難」(心中の賊を破るはカタシ)のように、難の字を単読する時はカタシと澄んで読みます。これは漢文の読みの定まりですから、間違わないようにしましょう。

(住所変更)

630 中山 潤・631 中山俊江新住所左記に

逗子市沼間三二七三

(電)〇四六八一七三三二一五

(入会)

722 内田キミ 横浜市戸塚区中田町一二七七

(大船B) (電)〇四五〇三一〇六七四

723 木下良子 横浜市戸塚区岡津町一七五二四

(大船B) (電)〇四五〇八一四九四四

(退会)

155 高橋栄風(大船B) 681 藤村 宏(銀 詠)

700 秋山美樹(真 澄) 701 秋山友香(真 澄)